


## 令和5年度 研究サマリー

研究会名称	腎代替療法研究会	
代表者所属	東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科	
代表者氏名	中山 昌明	
研究方法・結果	<p>末期腎不全に対する最初の腎代替療法として血液透析（Hemodialysis：HD）でなく腹膜透析（Peritoneal dialysis：PD）を選択する、いわゆるPDファーストは残存腎機能が保たれる、不均衡症状が少ない、在宅医療であり社会復帰が容易であるなどの利点から推奨されている。しかし、経年的に腹膜機能劣化や残存腎機能低下が認められ、PD単独治療は困難になる。このような症例に対し、直接HDに移行するのではなく、通常、週5日～6日のPDに週1回のHDを併用するPD+HD併用療法は、我が国特有の治療法である。</p> <p>PD+HD併用療法の明確な導入基準、中止基準、そして他の透析方法に対する優位性（非劣性）は明らかになっていない。腎代替療法研究会（EARTH（Evaluation on the Adequacy of Renal Replacement Therapy 研究会）はPD+HD併用療法の科学的妥当性を解明する目的で設立された。アンケート調査に基づいた多施設共同の後ろ向き研究では、PD単独から、PD+HD併用療法に移行することによって、溶質除去不全（透析不足）と体液貯留傾向（溢水）は改善、さらに、貧血と腹膜機能も改善傾向を示した。</p> <p>本研究会では、PD+HD併用療法の前向き研究を行っており、HD単独への移行症例と、併用療法への移行症例とで、生命予後は同等であることをTher Apher Dial誌で報告している。さらに、PD単独から併用療法に移行した40名を対象とした前向き研究で、併用療法移行後に赤血球造血刺激因子製剤（erythropoiesis stimulating agent：ESA）低反応性が改善したことをTher Apher Dial誌で報告した。</p>	
研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）	<p>第68回日本透析医学会 学術集会・総会（令和5年6月16日～18日）</p> <p>企業共催シンポジウム PD診療のポテンシャルと臨床的意義「PD何年続けられるか？」丸山之雄</p> <p>第29回日本腹膜透析医学会学術集会・総会（令和5年9月30日～10月1日）</p> <p>シンポジウム PD academia 最近の進歩「PD+HD併用療法で何が良くなるか？」丸山之雄</p>	